

「鳳春」^{ほうしゆん}「展茗」^{てんみよう}の幼木期における仕立て方法

農林センター 茶業研究所

要旨

「鳳春」及び「展茗」は、幼木期の仕立て管理において、摘採機による摘採を前提とした場合、新仕立て法（定植2年目の夏、3年目の春に前回せん枝位置10cm上でせん枝し、慣行に比べ1節程度多く残す）を行うことで、慣行仕立て法（同時期に前回せん枝位置5cm上でせん枝）に比較して、株張り及び摘採面積が3割程度拡大し、早期成園化が可能となる。

成果の概要

新仕立て法により「鳳春」では、初期の株張り及び摘採面積が大きく、早期成園化の利点がある（表2、図1）。

新仕立て法では、本来芽数が少なくなりやすい品種である「展茗」において、より多くの新芽数が確保できる（表2）。

一般的に「鳳春」及び「展茗」のような直立性品種は低く仕立てられるが、から両品種の幼木期には、慣行より1節程度多く残す新仕立て法が適する。

表1 せん枝の時期及び高さ (cm)

処理	定植時	2年目		3年目	
	平成18年4月	平成19年8月	平成20年3月	平成20年7月	平成20年7月
新仕立て法	実施* (20)	+10 (30)	+10 (40)	+5 (45)	
慣行仕立て法	実施* (20)	+5 (25)	+5 (30)	+5 (35)	

* 定植直後にせん枝し、樹高20cmに揃えた
 1) 数字の前の「+」は前回せん枝面から上方を示す
 2) カッコ内の数字はせん枝後の樹高を示す

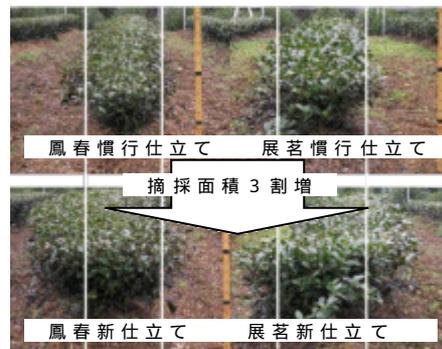


図1 各試験区の摘採面比較

表2 各仕立て法による樹形、一番茶新芽の形質および収量

品種	試験区	樹高*	株張り*	新芽数	百芽重	摘採面積	単位収量
		(cm)	(cm)	(本)	(g)	(m ²)	(g/m ²)
鳳春	新仕立て法	87.0	120.0	48.2	47.3	15.4	299.0
	慣行仕立て法	78.0	84.0	40.8	48.8	11.3	234.0
展茗	新仕立て法	89.0	84.0	64.0	48.3	13.4	339.0
	慣行仕立て法	87.0	75.0	34.0	72.8	10.4	282.0

*:平成20年9月調査

- 1) 鳳春: 萌芽期平成22年3月19日、株摘み5月5日、新芽数は20cm株内本数、摘採日5月8日
- 2) 展茗: 萌芽期平成22年4月9日、株摘み5月6日、新芽数は20cm株内本数、摘採日5月7日
- 3) 全試験区において、うね幅180cm、うね長40m/区で実施

(問合せ先 :
0774-22-5577)